

平成31年度 学校経営計画書

美作市立勝田小学校

○本校のミッション（使命、存在意義）

自然豊かな恵まれた教育環境のもと、永きに渡って地域からの温かいまなざしに支えられ、勝田小学校としての歴史と伝統を築いてきた。学校統合から3年を経過した今も、地域の学校として勝田小学校に寄せられる期待はますます大きいものとなっている。特に少子高齢化が顕著な校区にあって、本校児童の生き生きとした姿が地域の活力につながっているといても過言ではない。こうした地域や保護者の願いをしっかりと受け止め、地域に根ざした、地域とつながる教育活動を充実・深化させ、地域を愛し、地域から愛される勝田の子の育成を図ることが本校の大きな使命である。また、就学前教育と中学校教育との学びと育ちをつなぐ、小学校教育の果たすべき役割を踏まえ、子どもたちが自身の将来への夢や希望を持ち、将来を切り拓く礎となる確かな学力と豊かでたくましい心を培っていくことが本校の大きな責務であり、保護者や地域の期待に応えていくことになると思う。そのためにも、全ての教職員が「チーム勝田」の一員としての自覚を持ち、主体的に日々の教育実践に励むと共に、地域と協働した教育活動を重ねていくことで、本校の学校力をさらに向上させていきたい。

○内外の環境分析

1 内部環境

- 小規模校のため、児童一人一人に寄り添い、特性や課題を踏まえた個に応じた指導ができる。
- 明るく純朴で、諸活動に真面目に、意欲的に取り組もうとする児童が多い。
- ベテランと若手の教職員が協働し、補い合いながら、それぞれの力を発揮することができる。
- △固定化された集団の中で切磋琢磨する機会が少なく、対人関係力や課題解決力に課題がある。
- △基礎的学力は安定しているが、読解力や活用型の学力には依然として大きな課題がある。
- また、学年により上位層の児童が少なく、個による学力差も大きい。
- △自己有用感が年々高まってきていると感じられるものの自尊感情はまだまだ低い傾向にある。

2 外部環境

- 保護者や地域は本校教育方針に対して理解があり、教育活動にも非常に協力的である。
- 地域の文化や歴史、自然などの教育資源、ボランティアや外部講師等の人材に恵まれている。
- △児童数の大きな変動はないものの、地域社会の高齢化とともに、人口減少は著しい。
- △核家族や共稼ぎの家庭が多く、児童への関わりにやや希薄な面も感じられる。

○ミッションの追求を通じて実現しようとする本校のビジョン（将来像、目指す姿）

教育目標 「夢を拓き、確かな学力と豊かな心、たくましく生き抜く力を育む」
～学びをつなぐ 心をつなぐ 未来へつなぐ 勝田っ子の育成～

1 目指す学校像

- ・学ぶ喜びが実感でき、個々のよさが発揮される、安心で楽しい学校
- ・家庭や地域と協働し、子どもが自信を持って夢を育む、開かれた学校
- ・教職員にとってやりがいがあり、誇りの持てる、活力ある学校

2 目指す児童像

- かんがえる子・・・自ら考え、判断し、解決する（確かな学力）
- つよい子・・・根気よく、集中して取り組む（健やかな心と体）
- たすけあう子・・・互いを認め合い、励まし合う（豊かな心）

3 目指す教師像

- ・日々の教育実践を大切に、子どもに寄り添い、ともに学び、育つ教師
- ・教育のプロとしての熱意と誇りを持ち、保護者、地域に信頼される教師
- ・主体的に自己研鑽に励みながら、組織の一員として認め合い、協働する教師

○当該年度の具体的な学校経営目標・計画

学校経営目標 「一人一人が大切にされ、笑顔と活力があふれる学校づくり」
～理解（寄り添う）・徹底（やりきる）・向上（高める）～

指導の重点 ○自尊感情・自己有用感を高める ○学力・課題解決力・心力を高める

(1) 学力と体力の向上

研究テーマ『主体的に学び、認め合い、高め合う児童をめざして』

～自分で考え、表現できる楽しさを実感できる授業を通して～

・授業改革の徹底（授業力の向上）

主体的、対話的で、深い学びを促し「わかる」「できる」が実感できる授業づくり
（授業スタンダードの確立とICT活用・ユニバーサルデザイン教育の推進）

・「読解力」の育成を軸とした授業研究の推進・充実

・授業規律の徹底（教師自ら範を示す）

・表現力を育てる「言語活動」の充実

「書く」活動の日常化 「視写」活動の実施 「ことばのきまり」の定着

・読書活動の充実

・補充学習の取組の徹底（朝学習・放課後学習）及び補充学習強化月間の計画・実施

・家庭学習の充実・習慣化と宿題の完全提出（自主学習の充実・宿題の量と質の見直し）

・自主的に運動に親しみ、目標を持って取り組む環境づくり

(2) 落ち着いた学習環境づくり

・積極的な児童理解の徹底「寄り添い、変化を見取る」「よい言動を認め、褒める」

・児童相互が認め合い、高め合う学級集団づくり（思いが伝わる学級経営）

・言葉を大切に、自分の思いを表現する力の育成（正しく、温かい言葉遣い）

・特別の教科「道徳」を軸とした「道徳教育」「人権教育」の充実・徹底

・教育相談の充実（i-check・各種アンケート等の活用）

・未然予防と早期対応を基本とした危機管理・生徒指導（報告・連絡・相談・確認の徹底）

・保護者との連携強化（細やかな情報共有と丁寧で密な対応）

(3) 自己有用感の育成

・地域と協働した多様な体験や学びづくり（地域学習・学校支援ボランティア・外部講師）

・児童会や委員会活動の活性化（望ましいリーダーの育成と主体的・自治的な活動）

・意図的な異年齢及び異学年での交流活動

(4) 「15の春プロジェクト」の深化

・小中一貫教育カリキュラムの推進（「学びの時間」の活用）

・保幼小連携の促進（スタートカリキュラム・情報共有・園と連携した就学指導）

・キャリア教育の充実（夢・将来になりたい自分の姿）

・「学びと育ちの連携表」の活用・保護者への啓発

(5) 特別支援教育の充実

・細やかな情報共有と環境づくり（校内体制整備・「15の春プロジェクト」での連携）

・特別支援学級を核とした個に応じた指導・支援体制の構築

・特別支援教育に対する理解の促進

・校内委員会の活性化と関係校・関係機関との連携促進

(6) 「チームで動く」協働体制づくりと人材育成（認める、支える、高める教職員集団）

・主体的、組織的に、徹底する（見通しと細やかなPDCAサイクル）

・各分掌「チーム」での創造的な活動による組織の活性化

・「子どものために」という基本姿勢（「楽しむ」発想と熱意）

・校内OJTを中心とした人材育成の推進